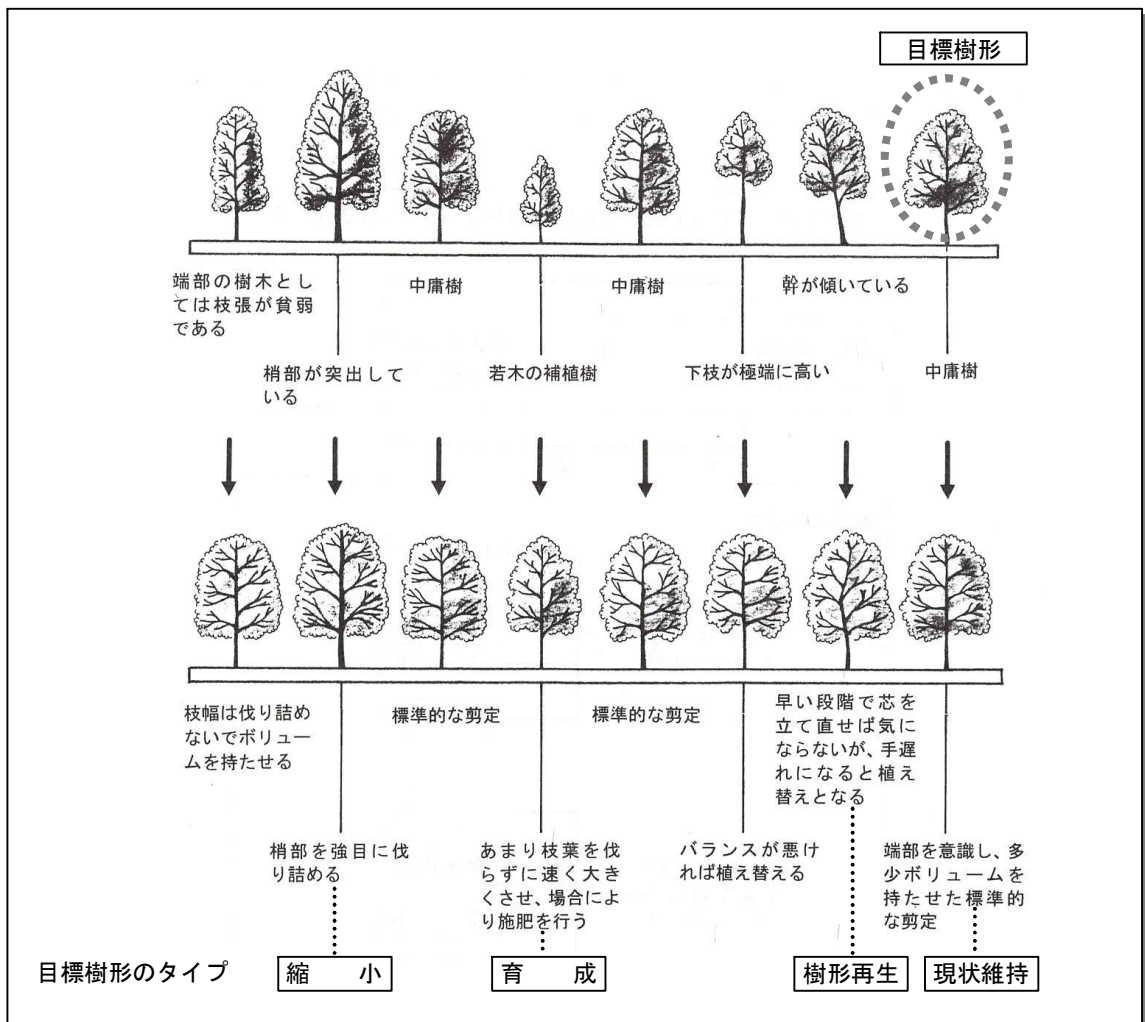


## 2-2 路線毎の目標樹形の設定

- ・ 路線内には、大きく成長している樹木や、生育不良の樹木、補植後間もない樹木等大きさがそれぞれ異なっているのが実状である。
- ・ そのため、路線内の街路樹すべてに対して一律に目標樹形のタイプを設定するのではなく、“目標樹形”として定めた大きさに、個々の樹木を照らし合わせて、それぞれに「育成」、「現状維持」、「縮小」、「樹形再生」のタイプを設定する必要がある。

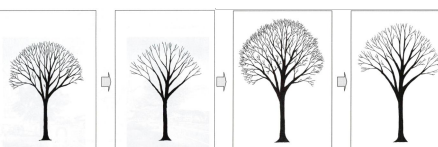
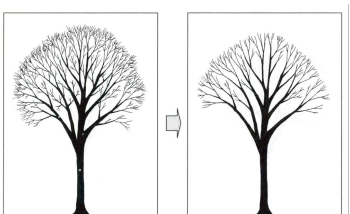
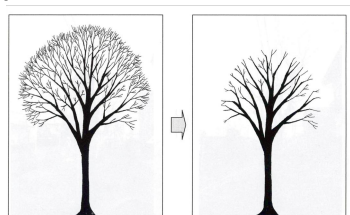
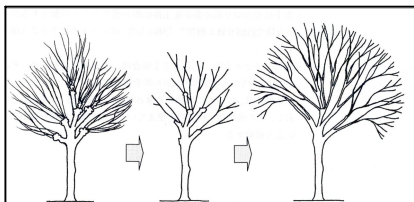
### ■ 同一路線内において、個々に目標樹形のタイプを設定した例



## 2-3 タイプ別の剪定の方針

- ・目標樹形にするための「育成」、「現状維持」、「縮小」、「樹形再生」のタイプ別の剪定方針は下表のとおりとする。

### ■タイプ別剪定方針と留意点

<p style="text-align: center;"><b>育成タイプ</b></p> 	<p>(剪定方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然樹形を維持しながら樹形を拡大し、ボリュームアップを図る。</li> <li>・「枝抜き剪定」を基本に、徒長枝、からみ枝、逆さ枝、平行枝、立枝など、切除すべき枝を中心に間引く。</li> </ul> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標樹形を考慮しながら、早い段階で樹形づくりを始めることが重要である。それによって、大きく成長した後の強剪定による樹形の乱れを回避することができる。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>現状維持タイプ</b></p> 	<p>(剪定方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然樹形で現在の大きさを維持する。</li> <li>・「切り返し剪定」を基本に自然樹形の柔らかさを維持する。</li> </ul> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な切り返し剪定が行われないと、自然樹形を維持することが難しいため、極端な切り詰め剪定にならないように留意する必要がある。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>縮小タイプ</b></p> 	<p>(剪定方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然樹形を維持しつつコンパクトに縮小する。</li> <li>・「切り返し剪定」、「枝おろし剪定」等を基本に、樹形を縮小しながら自然樹形を維持する。</li> </ul> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太枝を剪定する手法をとることになるため、切り口からの腐れの侵入を回避する措置が必要である。(防腐剤の塗布等)</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>樹形再生タイプ</b></p> 	<p>(剪定方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の乱れた樹形を自然樹形に再生する。</li> <li>・「切り返し剪定」や「切り詰め剪定」等を組み合わせて、樹形再生過程を考慮しながら比較的大きな剪定を行う。(大きな切り口には防腐剤の塗布が必要)</li> </ul> <p>(留意点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乱れた樹形を再生し、自然樹形を取り戻すことが可能だが、数年間の計画的な管理を必要とするため、実施に当たっては、必要性を十分に判断し、地元住民の同意を得て実施する必要がある。</li> </ul>